

インクルファンドで助成した団体の活動を紹介しす

一般社団法人 共働事業所「よって屋」



代表理事の重田益美さん

「生きづらい」社会と言われて  
います。高いスキルやコミュニケ  
ーション能力が求められる一方、  
そこに適応できない若者がいま  
す。非正規雇用で自立も困難な働  
き方を続けている人がいます。

生活クラブ運動グループ府中地域協議会では、誰もが  
排除されない包摂的(インクルーシブ)な仕事の場を地域  
につくすることを市民版地域福祉計画に位置付けました。  
そして、共働事業所「よって屋」は、2018年の1月、  
11名で準備会を立ち上げ、荒川区の企業組合「あう  
ん」への研修、法人格取得、古物商の手続きなどを経て、  
12月にスタートしました。インクルファンドでは、市  
民版地域福祉計画に基づく事業として、300万円の助成  
を行っています。「片付け」と収集した資源を活かす「リ  
サイクル」の仕事を通して、1人ひとりの可能性や違い  
を認め合い、仕事を分かち合い、メンバーが働き続け、  
自立できる共働事業所を目指しています。代表理事の重  
田益美さんにお話を伺いました。

15年前に滋賀県の障害者と健常  
者が対等な立場で働く「社会的事業  
所」を見学した際に、新たな価値観  
に衝撃を受け、いつかやってみたい



という思いを持ち続けていたことが、今回の立ち上げに  
つながっています。「リサイクルショップ」兼「事務所」  
は府中の車返団地内商店街の一角にあり、スタッフとお  
しゃべりしていく地域の常連さんもいます。

片付けの依頼は、一人暮らしの高齢者が施設等に入所  
する際の引き払いのほか、行政の生活支援課からの  
依頼が増えているとのこと。一般的な片付け・清掃と違  
い、話を聞き取りながら丁寧に仕分けをして片付ける業  
者が他にはほとんど無いことも依頼につながっていま  
す。しかしその一方で、力仕事や運転のできるスタッフが  
不足しており、趣旨に賛同して一緒に働きたい人材を募  
集しています。関心のある方はぜひ下記までご連絡くだ  
さい！ (インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子)



←店頭へ食べ物ポストを  
設置。賞味期限2ヶ月以  
上前のもの(常温、未開  
封)を受け付け、NPOシ  
ェアマインドの食料支援に  
活用します。

**(一社) 共働事業所 よって屋**  
府中市白糸台5丁目25第2-12号棟  
車返団地商店街103号(京王線武蔵野駅南口徒歩5分)  
電話 042-319-1001 営業 平日10時~18時(日曜定休)  
Email: kyodouyotteya@ap.wakwak.com

## サポーター募集中！ あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かな地域社会をつくらう！

サポーターとは『地域ごとに必要な機能をつくり、市民が参加し利用するまちづくり型福祉』を推進し、  
豊かな地域社会づくりにつなげるために、インクルーシブ事業連合の運営およびインクルファンド助成の  
財源を寄付で支える、個人または団体のことです。

<会費> 個人3,600円/年 団体10,000円/年

※生活クラブ組合員の場合、お申し込みいただくと300円/月を共同購入代金と一緒に引き落とします。  
(中止のお申し出がない限り、引き落としは継続されます)

★サポーターになるには、下記の申込書をファックスまたは郵送していただくか、WEBページの  
お申し込みフォームからご登録ください。 URL <https://www.inclusive-gr.com/supporter/>  
郵送先: 〒156-0051 世田谷区宮坂3-13-13 3F「生活クラブ・東京」内 インクルーシブ事業連合  
ファックス: 03-5426-5203 電話: 03-5426-5207

お名前			
ご住所	〒		
電話番号		メールアドレス	
所属	・生活クラブ生協(組合員コード: )・助成を受けた団体( ) ・運動グループ(団体名: )会員、メンバー ・その他( )		
申し込み口数	個人( )口	・・・1口	3,600円/年
	団体( )口	・・・1口	10,000円/年

\*ご記入いただいた個人情報、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。

つながって実現！ 市民主体のまちづくり型福祉

# インクルーシブ通信

2019年3月  
VOL. 27



発行: 生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者: 土谷雅美 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

## 安心して暮らせる地域を描こう 安心ネットワーク構想連絡会報告 2019.2.14

24時間365日の暮らしの安心を支えるため、地域に足りない機能をつくること、そして縦割りを越えて地域  
の中の様々な社会的資源をつなぐ福祉の拠点づくりを目指す「市民のための市民による安心ネットワーク構  
想」。その実現を目指して、各地の地域協議会で市民版地域福祉計画作りがすすめられています。安心ネット  
ワーク構想連絡会は、さらに多くの地域での計画づくりや実行計画につなぐための情報交換の場です。

今年度は16地域協議会から35人が参加し、過去  
3回の実施では最多の参加となりました。参加者から  
は話がわかりやすかった、持ち帰り参考にしたとの  
感想や、地域の拠点機能の重要性はわかるが、どのよ  
うに活動を進めればよいかわからないといった課題も  
出されました。インクルーシブ事業連合では、市民参  
画で誰もが安心して暮らせるまちを描き、実現してい  
くために引き続きこのような場を設けていきます。

### ～地域協議会の活動報告から～

#### ■杉並地域協議会(報告者/市橋綾子さん)



2013年に福<sup>2</sup>(ふくふく)プロジ  
ェクトを立ち上げ、地域協議会  
の5ヵ年計画を元に見学会や会  
議を重ね市民版の策定に取り組  
み始めた。計画をまとめる過程

でまちのほっとスペース「なかまの家」や「けやきの見  
える家」「エコメッセ高円寺店」の実態ができ、市民版に  
はこれらの機能をさらに広げていくことを盛り込んだ。

#### ■府中地域協議会(報告者/奥村幸子さん)

計画の柱は居場所づくり、地域の働く場づくり、環境・  
食を通じた地域をつなげる場、たすけあいの仕組み、拠  
点づくり(常設のセンター機能・ネットワークづくり)。



実行計画の推進に向けて  
2019年度は居場所づくりの  
具体的活動、助け合いのしく  
みや安心ネットワーク拠点づ  
くりに向けた検討を始める。

#### ■東村山地域協議会(報告者/和田安希代さん)



昨年9月にワークショップで  
まちづくりへの思いを出し合  
い、テーマ別に必要な機能に  
ついてまとめた。今年1月には  
「住み慣れた地域でともに  
暮らす住まい」を考えるアンケ  
ート調査を行った。2019年度  
はしげんカフェなどの活動に挑  
戦する。身近なところから活  
動を発信し、見える化すること  
が大事だと考える。



### 共に働く事業所 指定寄付 報告



就労に困難を抱える人と「共に働く」事業所を支  
援する事業所指定寄付へのご協力をいただき、あり  
がとうございました。2018年10月~2019年1月  
にかけて募集した結果、合計192,000円の寄付が集  
まりました。

みなさまからいただいた寄付は、誰もが排除され  
ることなく共に働くまちづくりに向けて、それぞれの  
団体に生かしてまいります。引き続き活動を見守  
り、ご支援ください。

寄付実績



NPO 法人エコメッセ  
71,500円(143口)



NPO 法人コンチエ  
ルティ  
120,500円(241口)

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アピリティクラブたすけあい(ACT)  
社会福祉法人悠遊東京ワークス・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京CPB(コミュニティパワーバンク)  
認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社/認定NPO法人まちぼっと/環境まちづくりNPOエコメッセ